

●第 67 回 湘南科学史懇話会（2014 年 3 月 2 日（日）午後 2 時 00 分～6 時 00 分）

## 安藤昌益の循環思想と自然概念

講師：東條榮喜さん（科学史・安藤昌益研究）

講演概要：安藤昌益は近世中期の代表的思想家の一人で、自然思想・社会思想・医学論・音韻言語論などの諸分野できわめて特徴的な思想・理論を展開した。20 世紀の半ばまでは、主に封建支配秩序を否定した民主・平等の労働思想家として評価されたが 1970 年代以後は世界的に環境保全の思潮の高まりを背景に環境思想家としても高く評価されるようになった。また医学関係の重要な史料が相次いで発見されたことで、昌益医学論も解明され、この方面でも独自性と先進性が解明されるようになった。

本講演ではそれら総ての方面を取り上げることは出来ないで、主として昌益の自然思想・環境思想の基礎を為している“生生循環”の思考の特徴を整理して提起し、昌益の“自然”概念の特徴と、漢字文化圏における、その背景史的思考について報告することにしたい。伝統的な陰陽五行論の変革の仕方について、昌益と三浦梅園の極めて対照的な違いとその成果についても言及したい。

### 講師プロフィール

東條榮喜（とうじょう えいき）

1943 年、新潟県の農家に生まれる。生家は江戸後期から幕末にかけて庄屋をしていた。東京理科大学理学部卒。少年時代から極微の世界に関心を持っていたので東京大学原子核研究所（略称＝東大核研；西東京市）に入り、加速器管理・開発の職務に従事した。1997 年に核研が高エネルギー物理学研究所（つくば市）と組織合併して「高エネルギー加速器研究機構」（略称 KEK）の発足に伴い、つくば勤務となり KEK の素粒子原子核研究所で ECR イオン源開発・短寿命核加速実験に参加。2006 年定年退職。

現役時から本職以外に安藤昌益思想の研究をサイドワークとして取り組み、中国科学思想史にも関心を持ち続けてきた。2000 年から安藤昌益思想の研究とその内発展開を目指して不定期通信誌「互生共環」を発行、現在 40 号まで継続中。

主要著書に「物理学史研究」（共著；1976；東海大学出版会）、「中国物理論史の伝統」（1983；海鳴社）、「安藤昌益・現代・中国——中日安藤昌益學術討論会論文集」（1993；山東人民出版社）、「安藤昌益の「自然正世」論」（1996；農山漁村文化協会）、「互性循環世界像の成立」（2011；御茶の水書房）など。

●日時：2014 年 3 月 2 日（日）午後 2 時～6 時

●会場：藤沢市労働会館 1 階 和室 〒251-0053 藤沢市本町 1-12-17

電話 0466-26-7811 小田急線「藤沢本町駅」徒歩 10 分

JR「藤沢駅」北口徒歩 15 分 <http://www.fujisawa-rodo.jp/access.html>

●参加費：1,000 円

●連絡先：猪野修治（湘南科学史懇話会・代表） 〒242-0023 大和市渋谷 3-4-1

TEL/FAX 046-269-8210 email [shujiino@js6.so-net.ne.jp](mailto:shujiino@js6.so-net.ne.jp)

湘南科学史懇話会 <http://www008.upp.so-net.ne.jp/shonan/home.htm>